

# 国内プラネタリウム組織の合流について

## 三会合流ワーキンググループ

全国プラネタリウム大会・2005大阪の会期中に、国内プラネタリウム組織の合流についてのセッションを持ちました。その内容を抜粋します。

### ○なぜ、今、合流を？

現在は、3団体がそれぞれに研究発表を行ったり、研修会を開催したりしています。近年の社会情勢の変化に伴い、3つに分かれて活動する事の弊害が目立ってきました。また、これら3つの組織のいずれにも参加していない施設も増えてきました。その結果、プラネタリウム業界の発展のために、組織を合流しようという機運が高まってきました。

### ○今までの経過

2003年10月：

NPFから、JPSへ合流についての話し合いの申し入れ

2003年12月：NPF, JPS会合

2004年 2月：AJPAも話し合いに参加

2004年 4月：

三会合流ワーキンググループ(三会合流WG)発足以降、メーリングリストや6回の会合を設けて議論

### ○過去の体験から

合流に際して、それぞれが違う未来を想像して判断しないように、情報を均一化し、話し合いの途中経過も全て公開してきました。

何かが変わるときはなんとなく不安なものですので、合流が出来たときの姿や、必要な条件を先に明らかにしようと、下のワーキンググループが作られました。

### ○三会合流ワーキンググループとは

3会会長の諮問機関で、仮に国内を代表する新たな団体が設立されたら、どんなことが可能になるか、どうすれば実現できるかを検討し、各会の会長に報告しました。以下は、決定事項ではありません。新しい組織が出来たときに、そこで新たに決めていくことです。あくまで指針、めざすものとしてお読みください。

### ◇基本的な考え方

○ 現在にこだわらず、理想的なプラネタリウム組織を考えましょう。市町村合併の失敗事例の轍を踏まないようにしましょう。名前の選択へのこだわりや、吸収・合併等の意識は、必要ありません。

○ 合流というよりも、3会に未加入の館も包括した、新団体の創設へ。プラネタリウムの未来を共に考えましょう。

○ それぞれの団体で行ってきたことを発展的に取り入れます。さまざまなレベルや内容の研修や活動が可能となるでしょう。メーカーや機種別の分科会ももちろん可能です。今より何かが減るという不安もあるかもしれませんが、そんな方は、必要だと思ふことをぜひ新会で提案してください。三会が合流し会員数が多くなれば、同じことを必要とする人数も増えます。つまり、今より容易に研修等が実現可能となるのです。

### ◇合流するメリット

○日本を代表する会としての発言力、広報力の確保

プラネタリウムの社会的認知度を上げ、行政への発言の場を確保し、プラネタリウムの重要性をアピールできる団体になることができます。

○会員数の増加による研修財源の確保

初心者からベテランまで、様々な研修、情報交換を行うことにより各館スタッフの力量を上げ、よりよい内容を各施設の利用者に提供して、社会に貢献することを目指します。

○事務などの簡素化が可能になる

3つの会それぞれで行ってきた会の運営事務が、1つに集約されます。そこで、プラネタリウムに関する研究や研修等、本来の会の活動に重点をおくことができます。将来的に事務の外部委託も可能でしょう。



セッション風景